



八節九十四  
九節九十五  
十節九十六  
十一節九十七  
十二節九十八  
十三節九十九  
十四節一百  
十五節一百零一  
十六節一百零二  
十七節一百零三  
十八節一百零四  
十九節一百零五  
二十節一百零六  
二十一節一百零七  
二十二節一百零八  
二十三節一百零九  
二十四節一百一十  
二十五節一百一十一  
二十六節一百一十二  
二十七節一百一十三  
二十八節一百一十四  
二十九節一百一十五  
三十節一百一十六  
三十一節一百一十七  
三十二節一百一十八  
三十三節一百一十九  
三十四節一百二十

を心見てかれらを捕ひ除けり。サマリヤの罪の半分は汝も罪を犯さるゝ事等をして彼らよりも多し行ひ増し汝の爲たる諸の憎むべき事のために汝の姉妹等をして義きかしくならしめたり。然レ汝の曾ての姉妹等の蒙るべき者と定めたるこの恥辱を汝もまた蒙むれよ汝が彼等よりも多し憎むべき事となしたるの罪のために彼等と汝よりも義くなまじり然レ汝も辱を受け恥を蒙むべき汝の姉妹等を義き者ととなしたまはなり。我ツサムヤの女等の俘囚をかしサマリヤの女等の俘囚をかへさん時お其と同一く據らまきたる汝の俘囚八人を歸し汝をして恥を蒙むらしめ汝が凡て爲たることの事を羞しむべし汝か彼らの慰さらん汝は姉妹ツサムヤの女子等の舊し様も歸りサマリヤに歸し女子等の舊し様を歸し汝の驕傲を日に汝の姉妹ツサムヤは事を口を速ざりき。汝は惡け露さし時を以て即ちサムヤは女子等と凡汝が周圍は者サムヤ人汝等が四方より汝を擲りて辱めし時まで汝は是れでどくなりき。エホバのいひたまふ汝は淫する行爲と汝のあつちの憎むべき事と汝が汝からこれに身を負ふなり。主エホバかく言れまふ誓言を輕んじて契約をやたりたるどころに汝に我汝は爲る所に去たかひて爲べし。我汝は若かりし日に汝になせし契約を記憶之汝となりなま契約をたてん。汝より姉妹汝より大なる者より小き者を得る時にいかに其行爲をおぼえて羞ん彼等汝は契約に屬する者にわらざれども我かれらに汝にわたして女となさしむべし。我汝と契約をたてん汝すあとも吾れエホバなるを知にいたらん。我なんぢ凡て行ひし所は事を赦す時に汝憶えて羞らう恥辱のために再び口を開くことなかるべし。主エホバこれと言ふ。

一節七〇二  
二節七〇三  
三節七〇四  
四節七〇五  
五節七〇六  
六節七〇七  
七節七〇八  
八節七〇九  
九節七一〇  
一〇節七一  
一一節七一二  
一二節七一三  
一三節七一四  
一四節七一五  
一五節七一六  
一六節七一七  
一七節七一八  
一八節七一九  
一九節七二〇  
二〇節七二一  
二一節七二二  
二二節七二三  
二三節七二四  
二四節七二五  
二五節七二六  
二六節七二七  
二七節七二八  
二八節七二九  
二九節七三〇  
三〇節七三一  
三一節七三二  
三二節七三三  
三三節七三四  
三四節七三五  
三五節七三六  
三六節七三七  
三七節七三八  
三八節七三九  
三九節七四〇  
四〇節七四一  
四一節七四二  
四二節七四三  
四三節七四四  
四四節七四五  
四五節七四六  
四六節七四七  
四七節七四八  
四八節七四九  
四九節七五〇  
五〇節七五一  
五一節七五二  
五二節七五三  
五三節七五四  
五四節七五五  
五六節七五六  
五七節七五七  
五八節七五八  
五九節七五九  
六〇節七六〇

言べし主エホバかく言たまふ大いなる翼長き羽ありて種々の色の毛の滿たる大鷲レバノン木來りて樹の梢を探り其芽の嶺を摘みカサンの地をこれを持ちたりて商人の邑に置きけるが。又その地の種をとりて之を種田ま播りすまよち之處にもちゆきて柳の邊にこれを樹しに。成長ちて式阜き垂さざりたる葡萄樹となり其枝の繁にむかひろの根の繁の下にわり遂に葡萄樹となりて芋をふき葉を出す。此に又大いなる翼多くの羽ある一箇の大鷲ありしごの葡萄樹根をこれにむかひて張り枝をこれにむかひて伸べ之をしてその植りたる地外より水を灌ぎまめんとす。抑是を善き圖に多の水の傍に植たりる根を張り實をむすびて盛なる葡萄樹となりしめたるなりき。汝主エホバかく言ふといふべし是は旺盛になるや。驚うの根を抜きその果を絶ちて之を枯せめざらんや其芽の若葉の智枯ん之を根より擧るに力強き腕と多の人を用ふるわおよむざるあり。是は植られたれども旺盛おあらんや東風これに當りて枯果ざらんや。是の生たるどころの地に枯べし。エホバの言を我にのみみて言ふ。背ける家に言ふべし汝等此の何たるを知ざるか。又言へ。願ふバビロン王エサルサレムに來りろ。王のどのの牧伯等を執へてこれをバビロン木曳ゆけり。彼また王の族の一人を取てこれと契約を立て誓言をなまめ及國の強き者等を執へゆけり。是の國を舉ぐして自ら立つてことを得ざらまめろの八を去て契約を守りてこれを毀うせよ。めんかためなりき。然るに彼これに背きて使者をエソプトに遣し馬と多くの人を已におくらしめんとせり。彼旺盛にならんや。是を爲る者逃るゝことをえんや彼の契約をやふりたり。争で逃るゝことを得んや。主エホバのいひたまふ我の活く必す彼を己を王となしたる彼王の處に偕にむりてバビロン木死べし。彼の王の誓言を輕んじ其契約を破りたるあり。夫を築き雲梯を建て衆多の人を殺さんとする時にハバロ



ノ節六〇十四	ノ節六〇五
ノ節六〇六	ノ節六〇七
ノ節六〇八	ノ節六〇九
ノ節六一〇	ノ節六一一
ノ節六一二	ノ節六一三
ノ節六一四	ノ節六一五
ノ節六一六	ノ節六一七
ノ節六一八	ノ節六一九
ノ節一二〇	ノ節一二一
ノ節一二二	ノ節一二三
ノ節一二四	ノ節一二五
ノ節一二六	ノ節一二七
ノ節一二八	ノ節一二九
ノ節一三〇	ノ節一三一
ノ節一三二	ノ節一三三
ノ節一三四	ノ節一三五
ノ節一三六	ノ節一三七
ノ節一三八	ノ節一三九
ノ節一四〇	ノ節一四一
ノ節一四二	ノ節一四三
ノ節一四四	ノ節一四五
ノ節一四六	ノ節一四七
ノ節一四八	ノ節一四九
ノ節一五〇	ノ節一五一
ノ節一五二	ノ節一五三
ノ節一五四	ノ節一五五
ノ節一五七	ノ節一五八
ノ節一六〇	ノ節一六一
ノ節一六二	ノ節一六三
ノ節一六五	ノ節一六六
ノ節一六八	ノ節一六九
ノ節一七二	ノ節一七三
ノ節一七五	ノ節一七六
ノ節一七八	ノ節一七九
ノ節一八二	ノ節一八三
ノ節一八六	ノ節一八七
ノ節一九〇	ノ節一九一
ノ節一九四	ノ節一九五
ノ節一九八	ノ節一九九
ノ節二〇二	ノ節二〇三
ノ節二〇六	ノ節二〇七
ノ節二一〇	ノ節二一一
ノ節二一四	ノ節二一五
ノ節二一八	ノ節二一九
ノ節二二二	ノ節二二三
ノ節二二六	ノ節二二七
ノ節二三〇	ノ節二三一
ノ節二三四	ノ節二三五
ノ節二三八	ノ節二三九
ノ節二四二	ノ節二四三
ノ節二四六	ノ節二四七
ノ節二五〇	ノ節二五一
ノ節二五四	ノ節二五五
ノ節二五八	ノ節二五九
ノ節二六二	ノ節二六三
ノ節二六六	ノ節二六七
ノ節二七〇	ノ節二七一
ノ節二七四	ノ節二七五
ノ節二七八	ノ節二七九
ノ節二八二	ノ節二八三
ノ節二八六	ノ節二八七
ノ節二九〇	ノ節二九一
ノ節二九四	ノ節二九五
ノ節二九八	ノ節二九九
ノ節三〇二	ノ節三〇三
ノ節三〇六	ノ節三〇七
ノ節三一〇	ノ節三一〇
ノ節三一四	ノ節三一五
ノ節三一八	ノ節三一九
ノ節三二二	ノ節三二三
ノ節三二六	ノ節三二七
ノ節三三〇	ノ節三三一
ノ節三三四	ノ節三三五
ノ節三三八	ノ節三三九
ノ節三四二	ノ節三四三
ノ節三四六	ノ節三四七
ノ節三五〇	ノ節三五〇

又ん彼も視てろの行ひし諸の答を離れなば必生ん死ざるべし然るにイスラエルの家の主の道ハ  
 正からずといふイスラエルの家よわが道正からざるやろの正からざる者ハ汝らの道にあらすや主エホ  
 ヲハひいたまふは故に我汝らに各々の道むまたがひて筆くべし汝らろの諸の答を悔改めよ然バ惡汝ら  
 贖かせて滅すぞあかるべし汝等ろの行ひし諸の罪を棄去り新しき心と新しき靈魂を起すべしイスラ  
 エルの家よ汝らなんぞ死んげんや我ハ死者の死を好ざるなり然バ汝ら悔て生よ主エホバハこれを言ふ  
 第二十一節 汝イスラエルの君等のために哀の言をのべて言べし汝の母なる批獅ハ何故に批獅の中に  
 伏し小獅の中にろの子を養ふや彼ろの一の子を育てたれバ小獅とありて食を攫てを學ひ恣に人を食  
 入り國々の人々を聞きてこれを陷阱にて執へ鼻環をほどこしてこれをエツアの地にひきいたれ  
 り母獅姑く待じろの望を失ひしを見れば又一個の子を取てこれを小獅とならしむ是すな之ち批  
 獅の中に歩みて小獅とあり食を攫てを學ひしが亦人を食ひ其算婦をしろろの邑々を滅せしるの咆  
 哮聲によりてろの地ろの中に盈る者荒たり是をもて四方の國々より攻來り綱をこれにうち  
 かけ陷阱にてこれを執へ鼻環をほどこして籠にいれ之をバビロンの王の許わ曳いたりて城の中に携へ  
 入る其聲を再びイスラエルの山々を聞えざらじし汝の母ハ汝の血おして水の側に植たる葡萄樹のど  
 し水の多きために結實多く蔓ばびこれり是に強き枝ありて君王等の杖とさすべし是の長ハ雲を至り  
 ろの衆多の枝のため高き籐と見たり然るに是怒をもて拔れて地に擲たる東風ろの實を吹散じ  
 の強き枝ハ折れて枯れ火に燃る今これハ荒野わて乾ける水亦き地も植りてありろの枝の芽より火い  
 てろの果を焼けバ復強き枝の君王等の杖とあるべき者其亦なし是哀の詞あり哀の詞とるべし

ノ節二〇四	ノ節二〇五
ノ節二〇六	ノ節二〇七
ノ節二〇八	ノ節二〇九
ノ節二一〇	ノ節二一一
ノ節二一二	ノ節二一三
ノ節二一四	ノ節二一五
ノ節二一六	ノ節二一七
ノ節二一八	ノ節二一九
ノ節二二〇	ノ節二二一
ノ節二二二	ノ節二二三
ノ節二二四	ノ節二二五
ノ節二二六	ノ節二二七
ノ節二二八	ノ節二二九
ノ節二三〇	ノ節二三一
ノ節二三二	ノ節二三三
ノ節二三四	ノ節二三五
ノ節二三六	ノ節二三七
ノ節二三八	ノ節二三九
ノ節二四〇	ノ節二四一
ノ節二四二	ノ節二四三
ノ節二四四	ノ節二四五
ノ節二四六	ノ節二四七
ノ節二四八	ノ節二四九
ノ節二五〇	ノ節二五一
ノ節二五二	ノ節二五三
ノ節二五四	ノ節二五五
ノ節二五七	ノ節二五八
ノ節二六一	ノ節二六二
ノ節二六五	ノ節二六六
ノ節二七〇	ノ節二七一
ノ節二七四	ノ節二七五
ノ節二七八	ノ節二七九
ノ節二八二	ノ節二八三
ノ節二八六	ノ節二八七
ノ節二九〇	ノ節二九一
ノ節二九四	ノ節二九五
ノ節二九八	ノ節二九九
ノ節三〇二	ノ節三〇三
ノ節三〇六	ノ節三〇七
ノ節三一〇	ノ節三一〇
ノ節三一四	ノ節三一五
ノ節三一八	ノ節三一九
ノ節三二二	ノ節三二三
ノ節三二六	ノ節三二七
ノ節三三〇	ノ節三三一
ノ節三三四	ノ節三三五
ノ節三三八	ノ節三三九
ノ節三四二	ノ節三四三
ノ節三四六	ノ節三四七
ノ節三五〇	ノ節三五〇

七年の五月十日ハイスラエルの長老の中のハエホバに問んとて來りてわが前お坐しける  
 第二十二節 我ハ言我おのぞみて云ふ人の子よイスラエルの長老等お告て之わいふべし主エホバハかく言ふ  
 汝等我を問んとて來れるや主エホバハ我を答へて汝かれらに騎かんとするや人の  
 子と汝かまらを騎かんとするや彼等の先祖等のかしたる憎むべき事等をかれらお知えめて言べし主エ  
 ホバハかくいふ我イスラエルを選みよわが家の裔わわが手をおびエツアの地に我をかれ  
 らに知らせられらむわが手をおびて我ハ汝らの神エホバなりと言ひし日ろの日お我かれらにむかひて  
 吾手をあげエツアの地よりかれらにをいだし吾がかれらのために求め得たるろの乳と蜜の流るく地に導  
 かんせり是諸の地の中の美しき者なり而して我かれらに言けらく各人ろの目にあるどころの憎むべ  
 き事等を棄りしか我エツアの地の中おいて吾憤恨をかれらお注ぎわが忿怒をかれらに洩さんと言  
 青きて我に聽たふふことを好まざるべき彼等一人もろの目にあるどころの憎むべき者を棄すエツアの  
 偶像を棄ざりしか我エツアの地の中おいて吾憤恨をかれらお注ぎわが忿怒をかれらに洩さんと言  
 り然れども我わが各々のために事をかして彼らにエツアの地より導きいだせり是吾名の異邦人等の前  
 に汚されざらんためありろの異邦人等の中に彼等居り又ろの前にて我おのれを彼等に知らせりすな  
 ち我エツアの地より彼等を導き出して曠野お攜ゆきわが法憲をこれに授けわが法律をこれに示せり  
 是ハ人の行ひて之に由て生べき者あり我また彼らに安息日を與へて我と彼の間の徴となしかれら  
 して吾エホバが彼らに聖別しを知らせんとせり然るにイスラエルの家の曠野わて我に背き人の行ひて  
 之わよりりて生べき者あるが法度わわゆる吾が法律を輕んじ大わ吾が安息日を背きたれバ曠野にてわ



汝ら散られたる處々より汝らを集むる時響しき香氣のごとくお汝らを懷びて受納れ汝らよよりて異邦人等の目のまへに我の聖とをあらはすべし我が汝らをイスラエルの地すかすわが汝らの先祖等おわたへんと手をあげしどころの地にいたらえめん時に汝等我のヨハバあるを知るおいたらん汝ら其身を汚したるどころの汝らの途と汝らのものろくの行爲を彼處わて憶之其かしたる諸の悪き作爲のために自ら恨み視んイスラエルの家と我汝らの悪き途よらす汝らの邪なる作爲よらすして吾名けためお汝等を待ばん時に汝ら我のヨハバあるを知るにいたらん主エホバにこれを言ふなりエホバの言ふれ我がおのみみて言ふ人の子よ汝の面を南方か向け南おむかひて言を垂れ南の野の森の事を預言せよすなえ南の森を言へしエホバの言を聴け主エホバかく言ふ視よ我ならざれば中火を燃さん是かんちの中の諸れ青樹と諸れ枯木を焚べしもの烈しき火煙消るるまでなし南より北まで誰れ面これらためお懼ん肉ある者みな我エホバはこれを見ん是は消さるべし我はかかいて言り嗚呼主エホバよ人をれを指て言ふ彼り響言をもて語るおわらずやと

エホバの言われおのみみて言ふ人の子よ汝の面をエルサレムに向け聖き處々にむかひて言を垂れイスラエルの地おびかひて預言しイスラエルの地お言ふべしエホバかく言ふ視よ我汝を責め吾刀を鞘より抜之なり義者と悪者とを汝の中より絶ん我義者と悪者とを汝の中より絶んとすればわが刀鞘より脱出て南より北まで凡て肉ある者お責ん肉ある者みな我エホバの刀を鞘より抜之おちしを知らん是は躡りをさせらざるべし人の子よ腰の砕くるまでお斬き彼らの目をなへて痛く斬け人汝お何て斬くやと言ふ汝言へし來どころの風聞のためかひ心か露け手みな瘡へ魂も亦弱り味み

1 卷六ノ六  
2 卷六ノ七  
3 卷六ノ八  
4 卷六ノ九  
5 卷六ノ一〇  
6 卷六ノ一一  
7 卷六ノ一二  
8 卷六ノ一三  
9 卷六ノ一四  
10 卷六ノ一五  
11 卷六ノ一六  
12 卷六ノ一七  
13 卷六ノ一八  
14 卷六ノ一九  
15 卷六ノ二〇  
16 卷六ノ二一  
17 卷六ノ二二  
18 卷六ノ二三  
19 卷六ノ二四  
20 卷六ノ二五  
21 卷六ノ二六  
22 卷六ノ二七  
23 卷六ノ二八  
24 卷六ノ二九  
25 卷六ノ三〇  
26 卷六ノ三一  
27 卷六ノ三二  
28 卷六ノ三三  
29 卷六ノ三四  
30 卷六ノ三五  
31 卷六ノ三六  
32 卷六ノ三七  
33 卷六ノ三八  
34 卷六ノ三九  
35 卷六ノ四〇  
36 卷六ノ四一  
37 卷六ノ四二  
38 卷六ノ四三  
39 卷六ノ四四  
40 卷六ノ四五  
41 卷六ノ四六  
42 卷六ノ四七  
43 卷六ノ四八  
44 卷六ノ四九  
45 卷六ノ五〇  
46 卷六ノ五一  
47 卷六ノ五二  
48 卷六ノ五三  
49 卷六ノ五四  
50 卷六ノ五五  
51 卷六ノ五六  
52 卷六ノ五七  
53 卷六ノ五八  
54 卷六ノ五九  
55 卷六ノ六〇  
56 卷六ノ六一  
57 卷六ノ六二  
58 卷六ノ六三  
59 卷六ノ六四  
60 卷六ノ六五  
61 卷六ノ六六  
62 卷六ノ六七  
63 卷六ノ六八  
64 卷六ノ六九  
65 卷六ノ七〇  
66 卷六ノ七一  
67 卷六ノ七二  
68 卷六ノ七三  
69 卷六ノ七四  
70 卷六ノ七五  
71 卷六ノ七六  
72 卷六ノ七七  
73 卷六ノ七八  
74 卷六ノ七九  
75 卷六ノ八〇  
76 卷六ノ八一  
77 卷六ノ八二  
78 卷六ノ八三  
79 卷六ノ八四  
80 卷六ノ八五  
81 卷六ノ八六  
82 卷六ノ八七  
83 卷六ノ八八  
84 卷六ノ八九  
85 卷六ノ九〇  
86 卷六ノ九一  
87 卷六ノ九二  
88 卷六ノ九三  
89 卷六ノ九四  
90 卷六ノ九五  
91 卷六ノ九六  
92 卷六ノ九七  
93 卷六ノ九八  
94 卷六ノ九九  
95 卷六ノ一〇〇

お水とならん視よ事いたれりかからす成ん主エホバこれを言ふエホバの言我にのみみて言ふ人の子よ預言して言へしエホバかく言ふ劍あり研ぎ且磨きたる劍あり是は大いに殺す事をなさんがため研てあり光り閃かんがために磨きてあり我子の械ハ萬の械を獵すまで我儕喜ぶべけんや是を手に執んためお與へて磨かしは劍ヲ殺す者の手に付さんために之を研かつ磨かまひるなり人の子よ叫び哭け其は是わが民の上おイスラエルの諸の牧伯等の上に臨めだなり彼らわが民とにも劍に仆る故に汝應を撃べし汝の試すに成る者かの觀視るどころの杖きたらずべ如何や主エホバこれを言ふ人の子よ汝預言し手を拍べし劍人を刺透すどころの劍三倍に働かん是は人を刺透し大なる者を殺すとこの劍わして彼らを賣る者なり彼らの心を鋭し弱く物を増んがために我拔身の劍を諸の門に立つ嗚呼是は光りらめき麗いで人を殺さんぞ汝合して右に向へ進んで左に向へ汝の向ふ處に隨がへ我また吾手を拍らわが怒を静めん我エホバこれを言ふなりエホバの言また我にのみみて言ふ人の子よバロンノ王の劍の由て來るべき二の途を設けよ其二の途を一の國より出しめて道標の記號を畫き巴の途の首處にてこれを畫くべし汝またアモンの子孫のラバとエメの堅き城の邑エルサレムとを劍のきたるべき途を設けよバロンノ王の途の首處の途の岐處お止りて占卜をさし箭を搦りテラビハお問ひ肝を察べなるおかり彼の右おエルサレムといふ占卜いづ云く破城槌を備へ口をひらきて嗚さ殺し聲をわけて兩頰を作り門にむかひて破城槌を備へ壘をきつき雲梯を建べし是はかれらの目おん虎傷の占と見ゆ聖言かれらに在んちなり然れども彼罪を憶ひかてさしむ即ちかれらに取るべし是故に主エホバかく言ふ汝ら既わりの罪を憶おてさしめて汝らの愆著明になりたれ汝らの罪の諸の行

1 卷七ノ一  
2 卷七ノ二  
3 卷七ノ三  
4 卷七ノ四  
5 卷七ノ五  
6 卷七ノ六  
7 卷七ノ七  
8 卷七ノ八  
9 卷七ノ九  
10 卷七ノ一〇  
11 卷七ノ一一  
12 卷七ノ一二  
13 卷七ノ一三  
14 卷七ノ一四  
15 卷七ノ一五  
16 卷七ノ一六  
17 卷七ノ一七  
18 卷七ノ一八  
19 卷七ノ一九  
20 卷七ノ二〇  
21 卷七ノ二一  
22 卷七ノ二二  
23 卷七ノ二三  
24 卷七ノ二四  
25 卷七ノ二五  
26 卷七ノ二六  
27 卷七ノ二七  
28 卷七ノ二八  
29 卷七ノ二九  
30 卷七ノ三〇  
31 卷七ノ三一  
32 卷七ノ三二  
33 卷七ノ三三  
34 卷七ノ三四  
35 卷七ノ三五  
36 卷七ノ三六  
37 卷七ノ三七  
38 卷七ノ三八  
39 卷七ノ三九  
40 卷七ノ四〇  
41 卷七ノ四一  
42 卷七ノ四二  
43 卷七ノ四三  
44 卷七ノ四四  
45 卷七ノ四五  
46 卷七ノ四六  
47 卷七ノ四七  
48 卷七ノ四八  
49 卷七ノ四九  
50 卷七ノ五〇  
51 卷七ノ五一  
52 卷七ノ五二  
53 卷七ノ五三  
54 卷七ノ五四  
55 卷七ノ五五  
56 卷七ノ五六  
57 卷七ノ五七  
58 卷七ノ五八  
59 卷七ノ五九  
60 卷七ノ六〇  
61 卷七ノ六一  
62 卷七ノ六二  
63 卷七ノ六三  
64 卷七ノ六四  
65 卷七ノ六五  
66 卷七ノ六六  
67 卷七ノ六七  
68 卷七ノ六八  
69 卷七ノ六九  
70 卷七ノ七〇  
71 卷七ノ七一  
72 卷七ノ七二  
73 卷七ノ七三  
74 卷七ノ七四  
75 卷七ノ七五  
76 卷七ノ七六  
77 卷七ノ七七  
78 卷七ノ七八  
79 卷七ノ七九  
80 卷七ノ八〇  
81 卷七ノ八一  
82 卷七ノ八二  
83 卷七ノ八三  
84 卷七ノ八四  
85 卷七ノ八五  
86 卷七ノ八六  
87 卷七ノ八七  
88 卷七ノ八八  
89 卷七ノ八九  
90 卷七ノ九〇  
91 卷七ノ九一  
92 卷七ノ九二  
93 卷七ノ九三  
94 卷七ノ九四  
95 卷七ノ九五  
96 卷七ノ九六  
97 卷七ノ九七  
98 卷七ノ九八  
99 卷七ノ九九  
100 卷七ノ一〇〇